

第2四半期決算概要

2010年3月期

株式会社シンプレクス・テクノロジー
(東証一部：4340)

www.simplex-tech.co.jp

進行

IR宣言

エグゼクティブサマリー

2010年3月期 上期決算概要

2010年3月期 通期決算見通し

第二次中期事業計画 進捗状況

IR宣言

シンプレクス・テクノロジーは、2009年11月2日に
上場会社初のIR宣言を発表しました

IR宣言

シンプレクス・テクノロジーIR宣言

2009年11月2日発表

- 1 IR活動を経営の最重要項目のひとつとして位置づけます。
- 2 東証一部上場のパブリック企業として説明責任を果たし、常に明瞭な企業メッセージを発信いたします。
- 3 業績動向や事業環境に関わらず、一貫して公正で信頼性の高い情報を開示いたします。
- 4 企業認知度の向上を目指すとともに、すべての利害関係者に対して公平かつタイムリーな情報開示に努めます。
- 5 株主・投資家とのコミットメントを遵守し、ゆるぎない信頼の構築に努めます。

IR活動指針とその実践にあたって

		IRの基盤整備	IRの更なる充実
		2009年度下期～2010年3月期 施策	2011年3月期 以降
		IR宣言/IR活動指針の策定	
		IR活動指針の実践項目	
IR活動指針	積極的なIR	<ul style="list-style-type: none"> IRイベント目標開催回数の提示 すべての個別取材にCEO又はCFOが対応 IR資料と質疑応答の内容の公開 他 	<p>株主・投資家の皆さまと長期的な信頼関係を構築し、企業価値の最大化をはかる</p> <p>さらなる施策の深掘りを実施し、継続的な発展を目指す</p>
	わかりやすいIR	<ul style="list-style-type: none"> IR資料の改革 ウェブサイトのリニューアル 定性情報の積極的な開示 他 	
	開かれたIR	<ul style="list-style-type: none"> 株主・投資家の声を経営へフィードバック 株主総会の土日開催 IR活動報告の実施 他 	
	株主満足度を高めるIR	<ul style="list-style-type: none"> 中期事業計画の明確な業績目標の提示 第二次中期事業計画の最終年度の売上高営業利益の下限値を株主へのコミットとする 	

詳細は11月2日発表のプレスリリースをご覧ください

<http://www.simplex-tech.co.jp/pdf/ir/press-release20091102.pdf>

エグゼクティブサマリー

エグゼクティブサマリー

2010/3期 上期の計画に対して

	上期実績 (前期比)	計画値	サマリー
売上高	64.5億円 (+19.4%)	64.4億円	計画通りの着地 インターネット取引システムがUMS系を中心に好調、ディーリングシステム/SIIは横ばい
営業利益	10.7億円 (+11.7%)	9.0億円	計画値を1.7億円上回る着地
受注高	77.3億円 (+24.5%)	—	UMS系を中心に好調に積みあがり、過去最高を記録
受注残高	77.2億円 (+20.3%)	—	過去最高を記録するも、来期売上に回る受注残高が増える

2010/3期 通期の計画に対する進捗状況

	通期計画 (前期比)	サマリー
売上高	145.0億円 (+21.4%)	今期売上として127億円が確定済み 18億円程度下期での積み増しに向け営業をする必要あり ⇒P24「売上高の進捗について」を参照
営業利益	30.3億円 (+20.1%)	下期でのコスト上ブレ要因がないため 売上高の達成度合いに依存する見込み

2010年3月期 上期決算概要

2010年3月期 上期決算実績（連結）

単位：百万円	2009/3期 上期	2010/3期 上期	前期比	期初計画
売上高	5,401	6,449	+19.4%	6,440
売上総利益（率）	2,284 (42.3%)	2,700 (41.9%)	+18.2%	2,597
販管費（率）	1,323 (24.5%)	1,626 (25.2%)	+22.9%	1,691
内 研究開発費（率）	494 (9.1%)	611 (9.5%)	+23.8%	700
営業利益（率）	960 (17.8%)	1,073 (16.6%)	+11.7%	905
経常利益（率）	914 (16.9%)	1,072 (16.6%)	+17.2%	890
四半期純利益	527	609	+15.6%	507
従業員数：期中平均	232	304	+31.0%	—



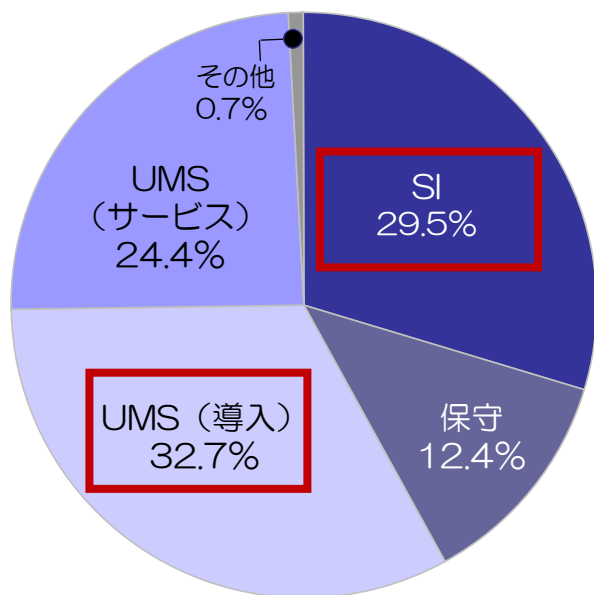
SIおよびUMS（導入）の利益率低下の影響を受けて
売上総利益率 前期比-0.4ポイント。但し、売上総利益額は期初計画を上回る



業容拡大に伴う人件費、採用・教育費、UMS事業向け研究開発費の増加の影響を受けて
販管費率 前期比+0.7ポイント。但し、販管費は期初計画を下回る

当社の事業セグメントについて

事業セグメント別
売上高構成比
(2010/3期 上期)




□ SIとUMS（導入）は“システム開発”という点で共通しています。


事業セグメント	特徴	収益形態
SI (システム・インテグレーション)	顧客の要望に沿ってシステムを開発・納入する受託開発が中心	フロー型
保守	SIで納入したシステムの運用・保守作業	ストック型
UMS (導入)	UMS (サービス) の導入・機能追加の開発費用を顧客が負担する場合に発生。当社負担分は研究開発費へ	フロー型
UMS (サービス)	当社が開発・運用・所有するシステムを顧客にサービス提供	成功報酬型 ストック型
その他	大半がハードウェアなど物品販売によるもの	フロー型


売上高の増減要因：事業セグメント別



単位：百万円	2009/3期 上期 売上高（構成比）	2010/3期 上期 売上高（構成比）	前期比
SI	2,047 (37.9%)	1,908 (29.5%)	− 6.8%
保守	783 (14.5%)	801 (12.4%)	+ 2.3%
UMS（導入）	1,139 (21.1%)	2,114 (32.7%)	+85.6%
UMS（サービス）	937 (17.4%)	1,578 (24.4%)	+68.4%
その他（物販など）	493 (9.1%)	46 (0.7%)	−90.6%

 SIは大型案件が少なく、リピート中心の展開。保守の減額交渉の影響も響く

 当上期より大証FXがスタート。SPRINTの新規導入案件が目立ち、UMS系が大きく躍進

 物販売上について手数料部分のみを計上するネットィング処理を実施、その他が大幅減

※SPRINT（スプリント）とは、当社が金融機関向けに展開する個人投資家向けインターネット取引サービスの名称です。

売上総利益の増減要因：事業セグメント別

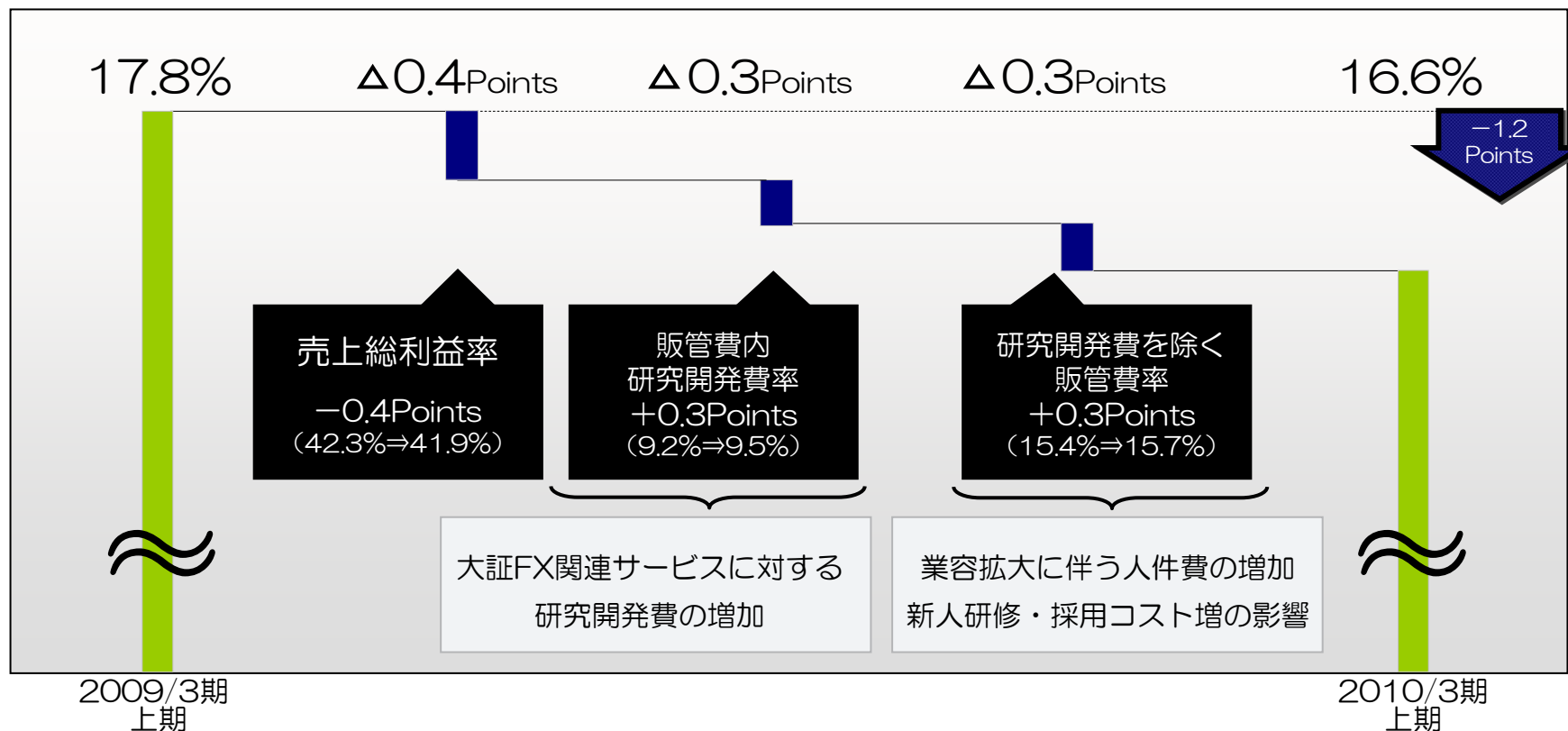
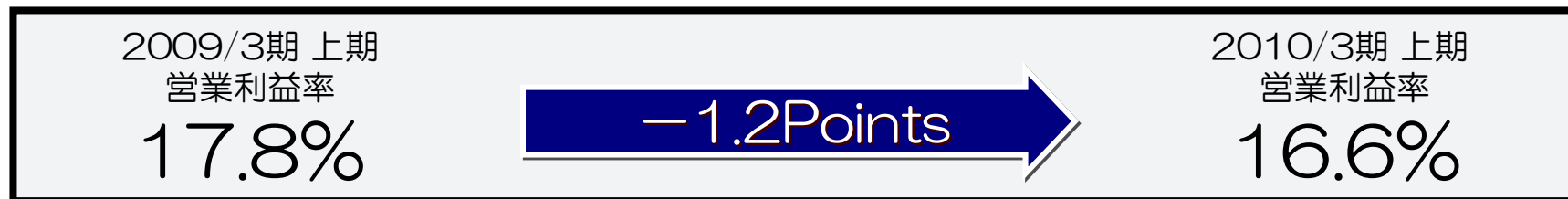


単位：百万円	2009/3期 上期 売上総利益 (利益率)	2010/3期 上期 売上総利益 (利益率)	利益率前期比
SI	834 (40.8%)	642 (33.7%)	- 7.1Points
保守	425 (54.3%)	401 (50.2%)	- 4.1Points
UMS (導入)	502 (44.1%)	725 (34.3%)	- 9.8Points
UMS (サービス)	442 (47.2%)	884 (56.0%)	+ 8.8Points
その他 (物販など)	79 (16.0%)	46 (100.0%)	+84.0Points

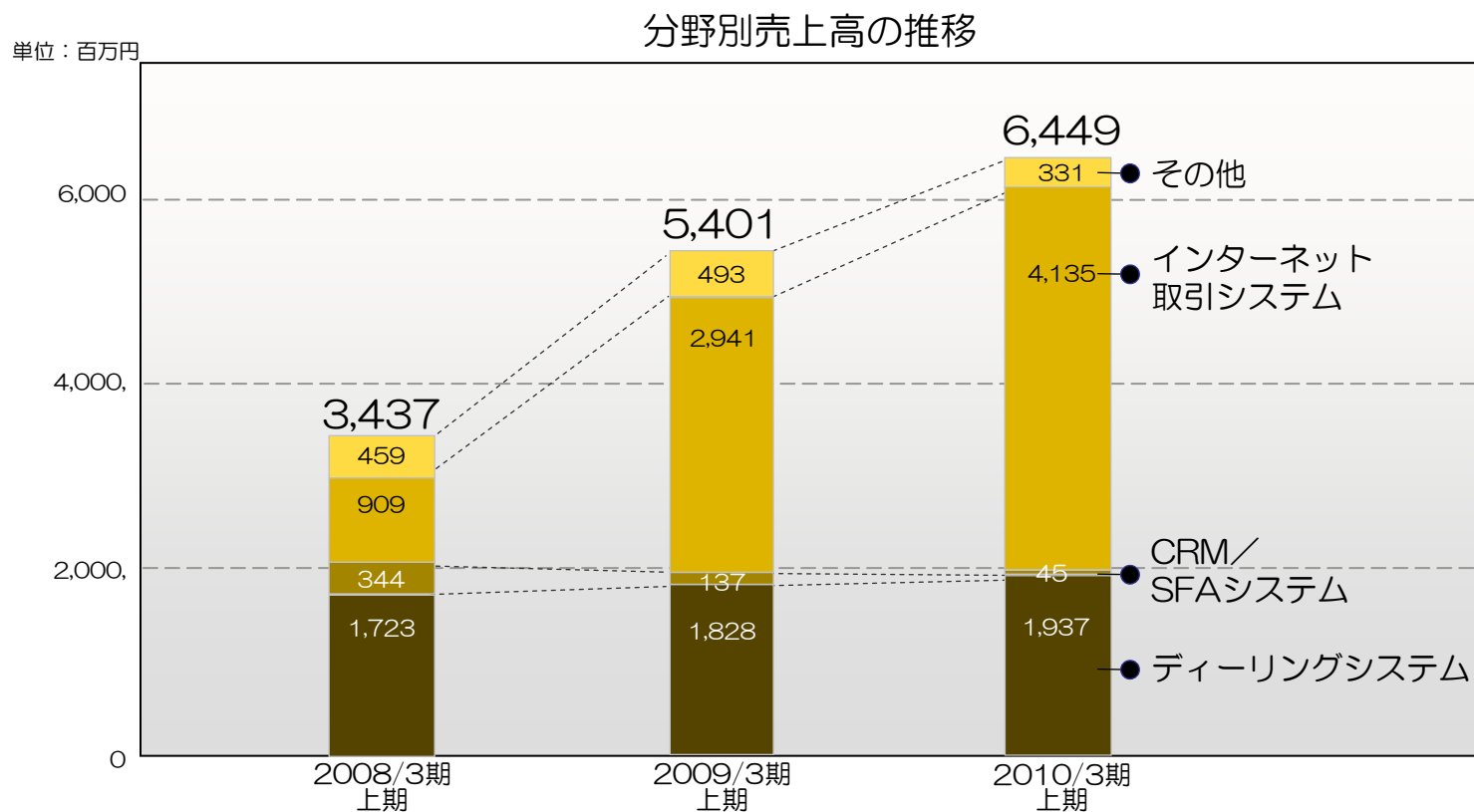
1Qに発生した特定の不採算案件の影響により、SIの利益率が低下
 当該案件のリリース後も保守の負荷が高く、保守の利益率が低下
 大証FX関連の5月→7月延期によるコスト負担増により、計画通りUMS (導入) の利益率が低下

SPRINT導入顧客の増加により、UMS (サービス) の利益率が大幅に伸びる
 利益率の高いUMS (サービス) の構成比が高まったことが、全体の利益率の下支えに

営業利益率の増減要因



分野別傾向分析①：売上高の推移



ディーリングシステム：従来の主力事業であったがここ数年低調

インターネット取引システム：ここ数年の成長ドライバー

※CRM案件は、当期より当社の持分法適用関連会社のバーチャレクス・コンサルティングに完全委託しています。

※その他は、大半がハードウェアなどの物品販売によるものです。 14

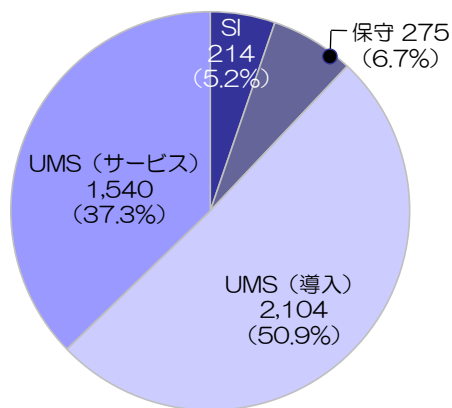
©1997-2009 Simplex Technology, Inc.

分野別傾向分析②：インターネット取引システム

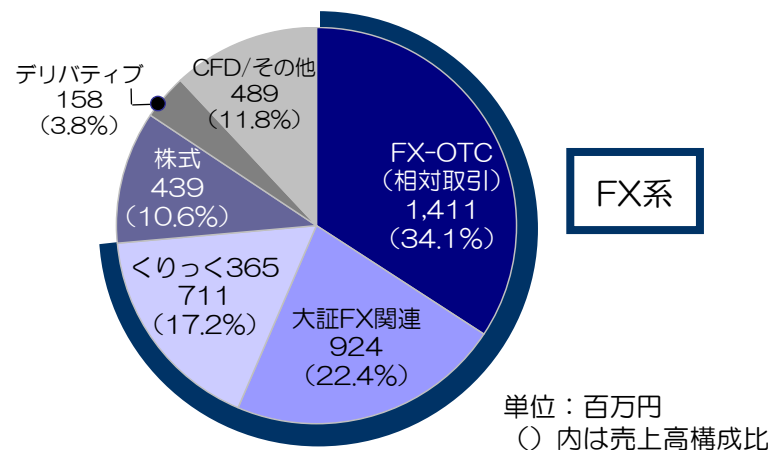
インターネット取引システム
2010/3期 上期売上高
4,135百万円
(前期比：+40.5%)

UMS系が躍進する当社の成長ドライバー

事業セグメント別構成比
(2010/3期 上期)



ソリューション別構成比
(2010/3期 上期)



■ UMS系の売上が大半を占める

- FXが圧倒的な成長ドライバー、新規案件においてはOTCから取引所FXに移行
- 新規にCFD向けサービスをスタート
- 既存の株式のテコ入れも実施予定

※1 大証FXとは、大阪証券取引所が2009年7月に創設した取引所FXの愛称です。

※2 <くりっく365とは、東京金融取引所に上場している取引所FXの愛称です。

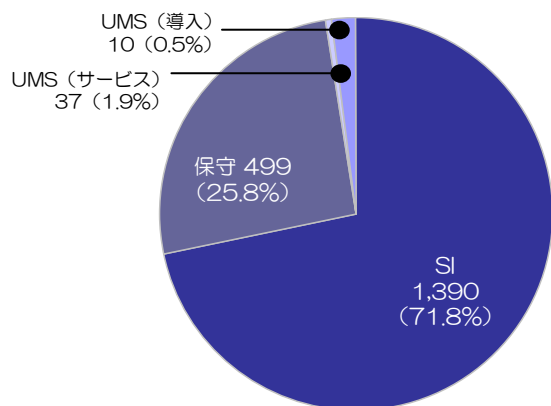
※3 CFDとはContract for differenceの略称で、様々な金融商品の差額売買を証拠金によって行う差金決済取引を指します。

分野別傾向分析③：ディーリングシステム

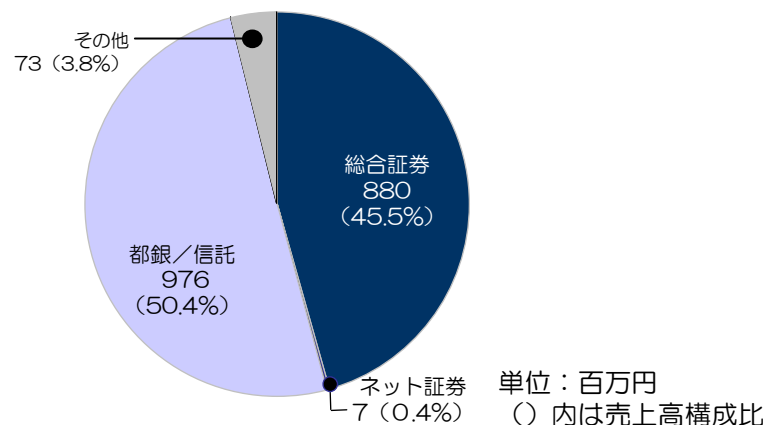
ディーリングシステム
2010/3期 上期売上高
1,937百万円
(前期比：+6.0%)

SI/保守が中心の従来主力事業

事業セグメント別構成比
(2010/3期 上期)



顧客セグメント別構成比
(2010/3期 上期)



■ SI/保守が大半を占める

■ 従来の総合証券中心から都銀/信託に移行

分野別傾向分析④：総括

	分野別	
	ディーリングシステム	インターネット取引システム
事業セグメント	SI/保守が中心	UMS系が中心
顧客	都銀/総合証券が半々	総合証券/ネット証券 ネット銀行/FX専業業者 取引所など多岐に渡る
現状	ここ数年横ばい	急成長中
成長ドライバー	都銀向け大型SI案件	FX
トピック	従来の総合証券中心から 都銀/信託へ大きく移行	FXはOTCから取引所取引 (大証FX/くりっく365)へ移行 CFD向けサービスを開始

2010年3月期上期 重要なトピックについて

2009年7月21日より大証FXスタート

- 取引所向けサービス・FX事業者向けサービスの双方から成功報酬型の売上を計上
- 今期については取引量を保守的に見積もっており、業績へのインパクトは少ないものの想定以上に立ち上がり低調

工事進行基準の適用と物販売上計上基準の変更

- 物販売上を総額表示から手数料部分のみを計上する純額表示に変更
- SIとUMS（導入）売上計上基準を原則として検収基準から工事進行基準に変更
当上期においては売上高：6.4億円／営業利益：2.4億円分のインパクトあり

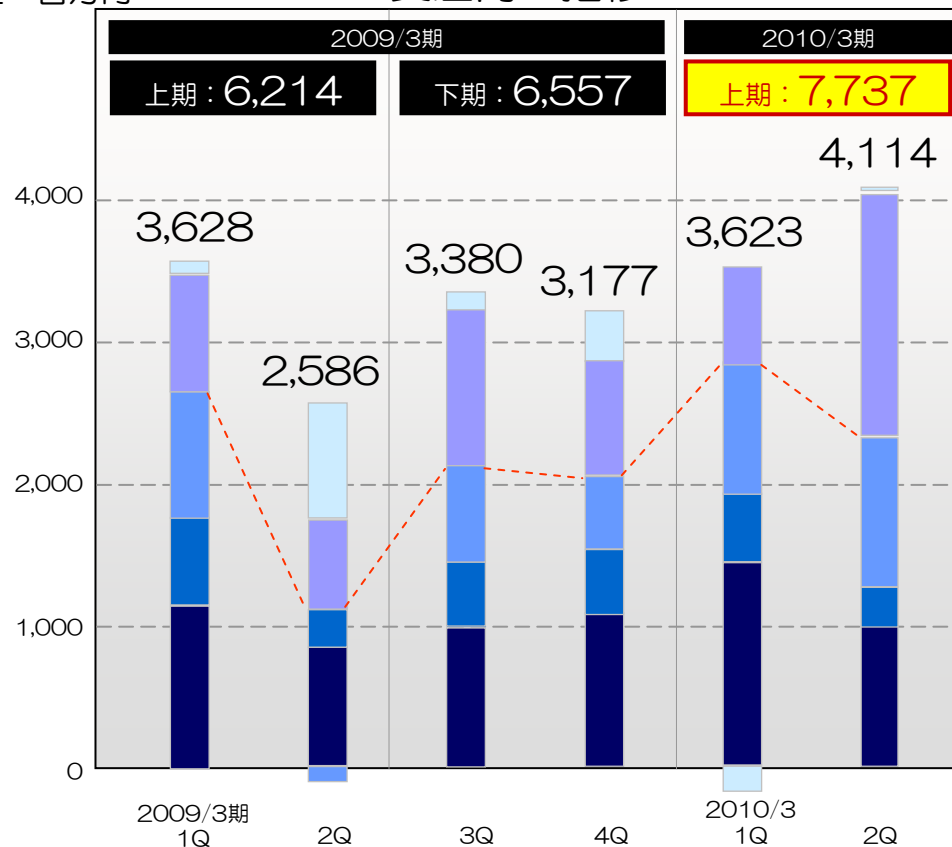
採用教育：2009年4月入社 新卒63名

- シリコンバレーでの金融トレーニングを含む6ヶ月の集中研修を終え、3QよりOJTへ
- なお、2010年4月には新卒社員は約60名が入社予定

受注高の推移：事業セグメント別

単位：百万円

受注高の推移



	2009/3期	2009/3期	2009/3期	2009/3期	2010/3	2010/3
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
■ その他	91	855	149	357	-191	28
■ UMS (サービス)	835	665	1,103	796	747	1,768
■ UMS(導入)	903	-110	693	504	1,008	1,045
■ 保守	629	286	454	450	527	286
■ SI	1,167	888	980	1,069	1,532	985

2010年3月期上期の動向

2010年3月期上期受注高：77.3億円
(前期比：+24.5%)

▲ UMS (導入) とUMS(サービス) の受注高が好調に積み上がる

※当期より、「その他」については物販売上の手数料部分のみを計上する
ネットィング処理を実施しているため、2010年3月期1Q「その他」の
受注高がマイナスとなっています。

2010年3月期 通期決算見通し

2010年3月期 通期決算見通し（連結）

単位：百万円	2009/3期 実績	2010/3期 見通し	前期比
売上高	11,942	14,500	+21.4%
売上総利益（率）	4,959 (41.5%)	6,387 (44.0%)	+29.0%
販管費（率）	2,436 (20.4%)	3,357 (23.1%)	+37.8%
内 研究開発費（率）	942 (7.8%)	1,200 (8.2%)	+27.3%
営業利益（率）	2,522 (21.1%)	3,030 (20.8%)	+20.1%
経常利益（率）	2,484 (20.8%)	3,000 (20.6%)	+20.8%
当期純利益	1,189	1,810	+52.2%
従業員数：期中平均	234	312	+33.3%

期初予想は据え置き

2010年3月期 通期決算見通しのポイント

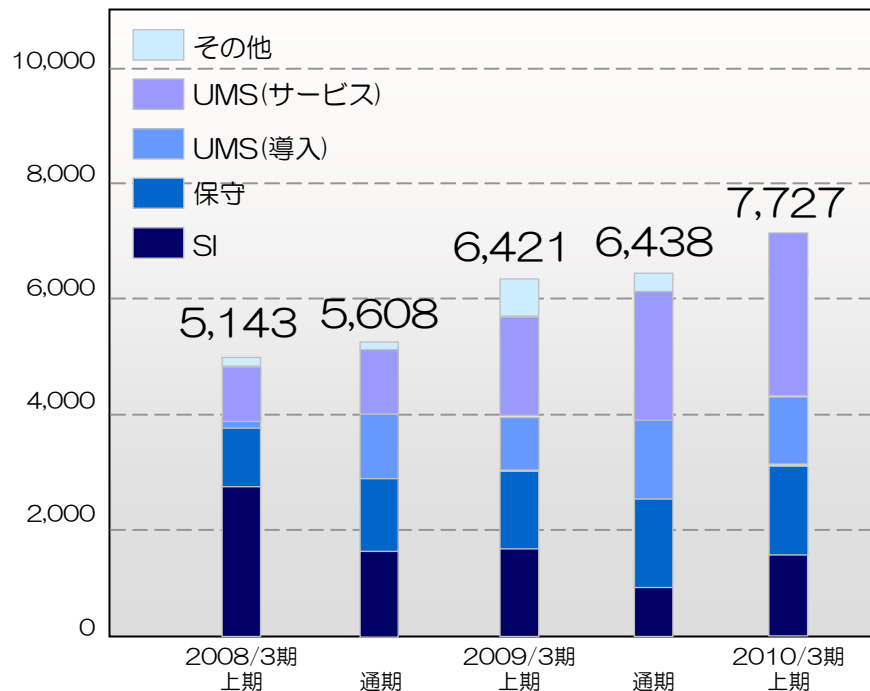
		通期概算見通し		2010/3期 上期における進捗状況	
		売上高	売上総利益率	売上高	進捗率
SI		約55億円	39%	19億円	34%
保守		約20億円	53%	8億円	40%
UMS	導入	約29億円	39%	21億円	72%
	サービス	約40億円	48%	15億円	37%
その他（物販）		約1億円	90%	0.4億円	40%

通期概算見通しに対する現状の着地見通し

- 保守：減額交渉の影響により若干計画値を下回る見通し
- UMS（サービス）：期初計画値を若干下回る見通し
- システム開発系<SIとUMS（導入）>は入り繰りができる見通し
保守とUMS（サービス）の売上額不足を挽回するべく、営業活動に注力

受注残高の推移

単位：百万円



Category	2008/3期 上期	2008/3期 通期	2009/3期 上期	2009/3期 通期	2010/3期 上期
その他	229	175	628	300	90
UMS(サービス)	974	1,233	1,797	2,244	3,181
UMS(導入)	167	1,094	749	1,419	1,358
保守	1,210	1,391	1,524	1,578	1,591
SI	2,561	1,713	1,721	895	1,504

2010/3期上期受注残高：77億円 (注1)
(前期比：+20.3%)

(うち今期計上分：48億円) (注2)

(注1) 上期受注残高には、変動部分であるUMS(サービス)のインセンティブ売上高は含まず、基本料金売上のみを計上しています。

(注2) 今期計上分の受注残高には、来期完了予定プロジェクトの進行基準による今期売上高は含んでいません。

売上高の進捗について

2010/3期 上期

A	通期売上高見通し	145億円
B	受注済案件 今期計上予定分	127億円
	上期売上高	(64億円)
	今期計上予定受注残高	(48億円)
	進行基準に関する売上高※	(約10億円)
	UMS (サービス) インセンティブ売上高※	(約4億円)
A-B	通期売上高見通し比	-18億円

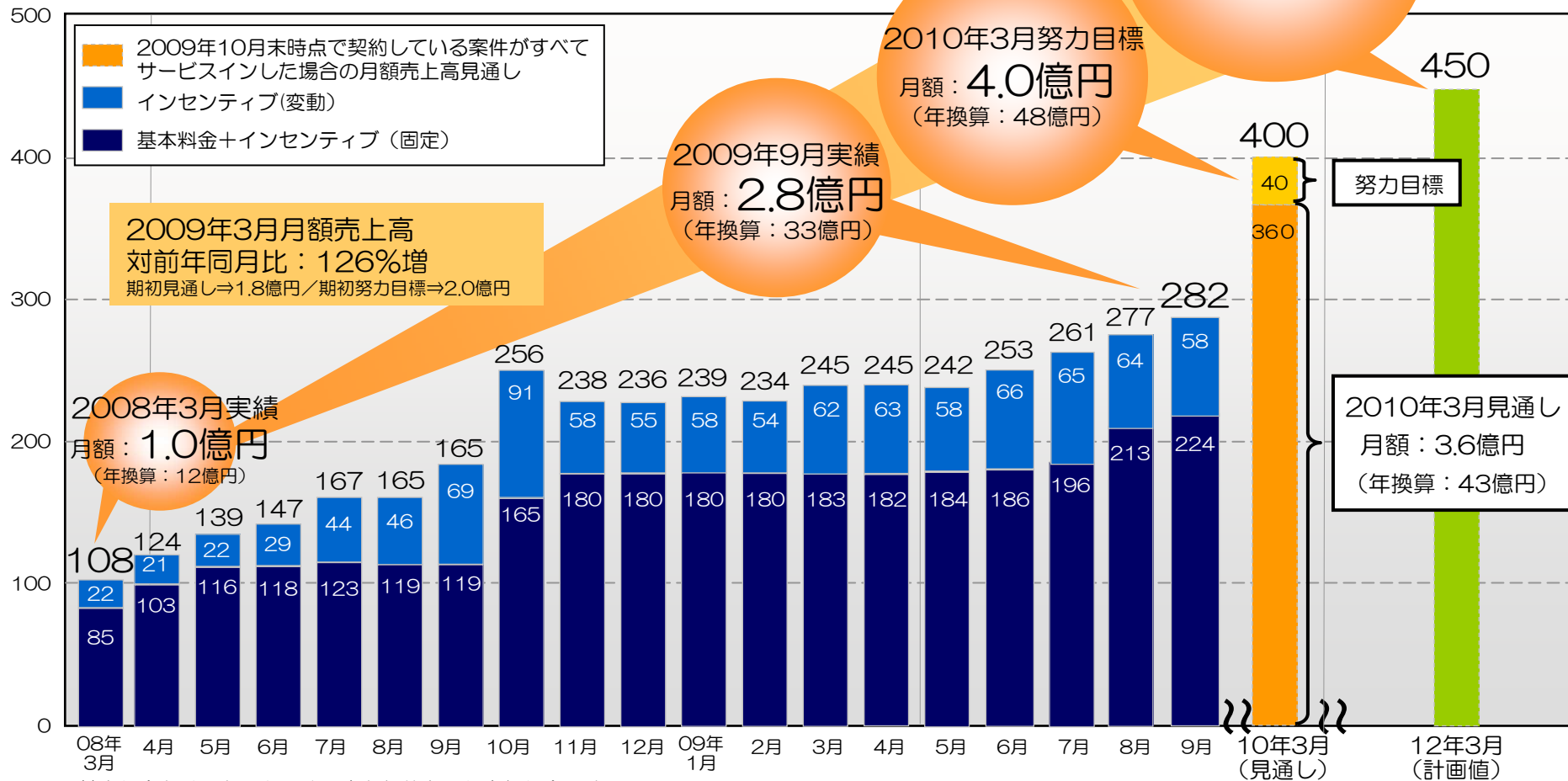
下期に新規受注し検収まで終える、今期売上計上すべき金額：18億円
(前期下期実績：17億円)

足元において、2Qでの案件の引き合い状況はかなり低調だったが
3Qに入り大型SI案件など引き合い状況は回復しつつある

※「進行基準に関する売上高」および「UMS (サービス) インセンティブ売上高」につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。実際の業績はこれらの見通しと異なる結果となる可能性があります。

成長ドライバーとなるストック型ビジネス UMS(サービス) 月額売上高の推移

単位：百万円



※基本料金とは、あらかじめ顧客と契約をした定額料金です。

※インセンティブとは、「手数料収入課金」などサービスを利用することによって生じる顧客の収益に連動する料金です。

※年換算値は、月額売上高の値を12倍して算出したものです。

※2010年3月見通しは、2009年10月時点の契約済案件から計上しています。25

2010年3月期下期 重要なトピックについて

UMS事業関連の販管費内研究開発費として12億円を計上予定（前期比：2.5億円増）

- 前期に引き続き、UMS事業へ積極的な先行投資を実施予定（上期：6億円／上期計画値：7億円）
- 通期計画（12億円）から上期消化分（6億円）の残り（6億円）は、消化しきれない可能性あり

研究開発費を除く販管費として21億円を計上予定（前期比：6.6億円増）

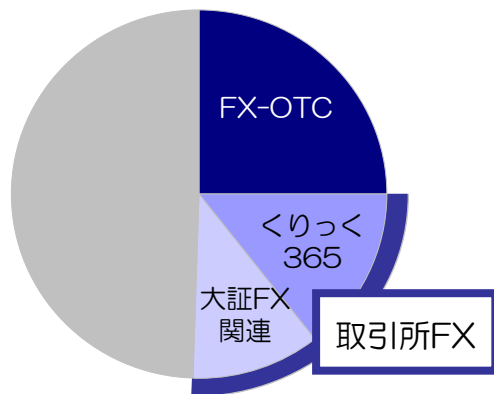
- プロジェクト管理体制の整備や新卒社員の育成のため、採用教育費が増加予定（前期比：約2億円増）
- UMS関連の減価償却費が発生予定（前期比：約2億円増）
- 本社のあるコレド日本橋に段階的に増床、今期中にオフィスを集約予定
⇒賃借料の増加（前期比：約0.8億円増）、特別損失に引越し費用として0.7億円計上予定

配当の実施

- 業績連動型、配当性向10～15%
- 一株あたり330円の見込み（前期260円）

FXを巡る市場環境に対するリスク分析

2010年3月期上期売上高におけるFX系売上高構成比



2010年3月期
上期売上高に占めるFXの割合 : 50.5%

取引所FX向けシステムにおいて圧倒的シェアを確立

- くりっく365取扱業者向け：16社中6社が当社システム
- 大証FX取扱業者向け：7社中6社が当社システム

(2009年10月末現在)

金融庁の改正内閣府令が求める内容	改正内閣府令に対する当社の状況と影響
レバレッジ（証拠金）規制の導入	2010年8月頃からレバレッジ50倍まで 2011年8月頃からレバレッジ25倍までに規制される ⇒当社の見解については次ページで説明
区分管理方法の 金銭信託一本化	OTC、取引所FXともに、当社顧客は顧客預り証拠金の完全信託を導入済みのため、当社への影響はなし
ロスカットルール整備と 遵守の義務付け	システム対応が求められ、当社システムの優位性が訴求できるため、当社にとっては追い風となる可能性あり

レバレッジ規制に対する当社の見解

当社顧客特性と規制による当社への影響について

レバレッジレベル		2010/3期上期UMS系売上高 合計			規制による 当社への影響
		UMS (導入)	UMS (サービス)		
高レベル	200倍以上	—	—	—	影響なし
中レベル	50~100倍前後	1.3億円	5.7億円	7.1億円	一定の影響あり
低レベル	25倍前後	5.0億円	2.4億円	7.5億円	影響なし

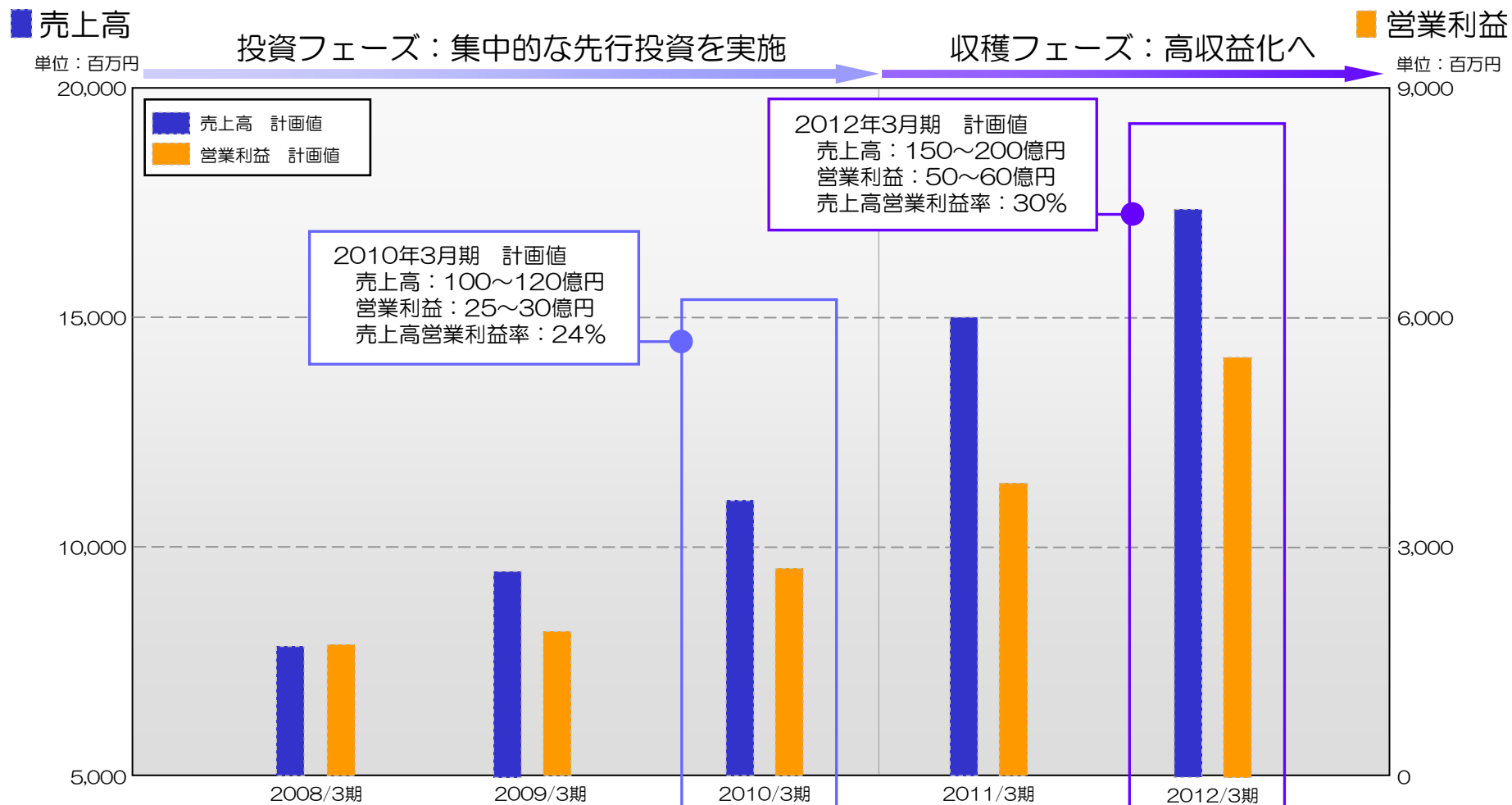
- レバレッジ規制の大きな影響を受けるハイレバレッジ業者が顧客にいない
- 中レバレッジOTC業者は一定の打撃を受けると想定
 1. マーケットから投資家が流出するリスク、またレバレッジ自体が低くなることで取引量自体が減るリスク
 2. レバレッジの優位性がなくなるため、税制優遇を求めてFX-OTCから当社が圧倒的なシェアを持つ取引所へ投資家が流れる可能性がある
- OTC大手業者を中心に取引所取引（大証FX/くりっく365）の引き合いが多くあり
当下期にも新規顧客がみこまれる

総括

以上の理由により、一定の影響は受けるものの限定的なものと判断

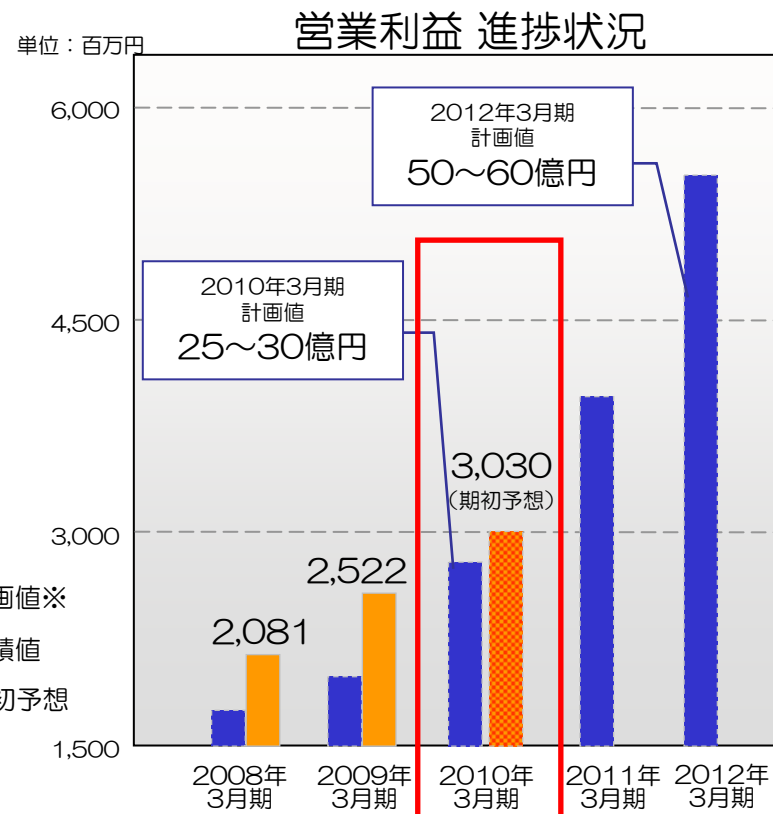
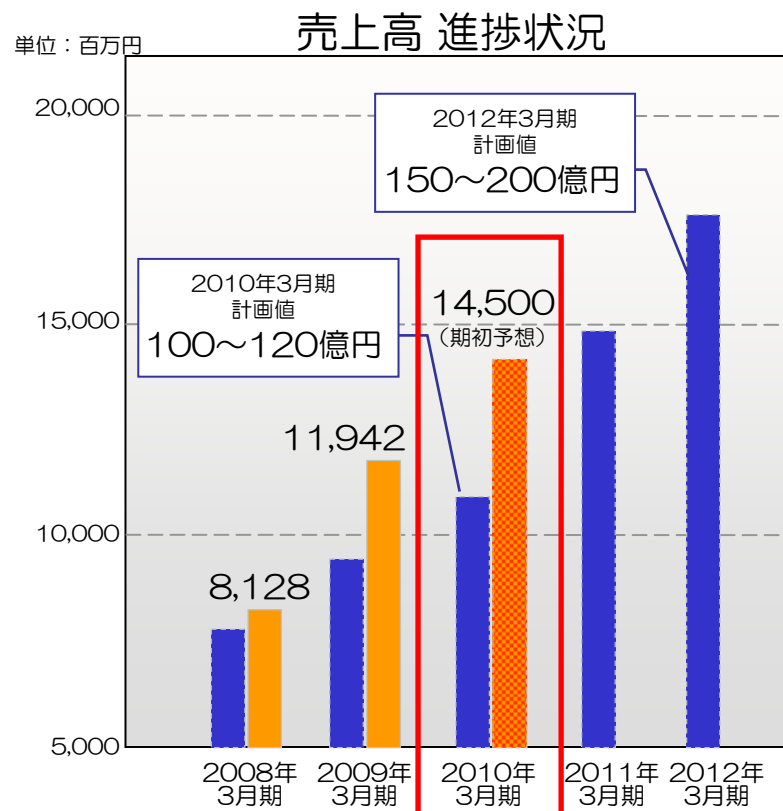
第二次中期事業計画 進捗状況

第二次中期事業計画 計画値 (2006年11月策定)



※UMS事業向け先行投資として、5年間で50億円程度の投資を実施予定です。投資コストは各会計年度で費用化することを前提としています。
 ※2010年3月期、2012年3月期のグラフはすべて中間値で表示しています。

第二次中期事業計画 進捗状況



売上高は1年前倒しのペースで進捗中



利益は計画上限値をわずかに超える予定

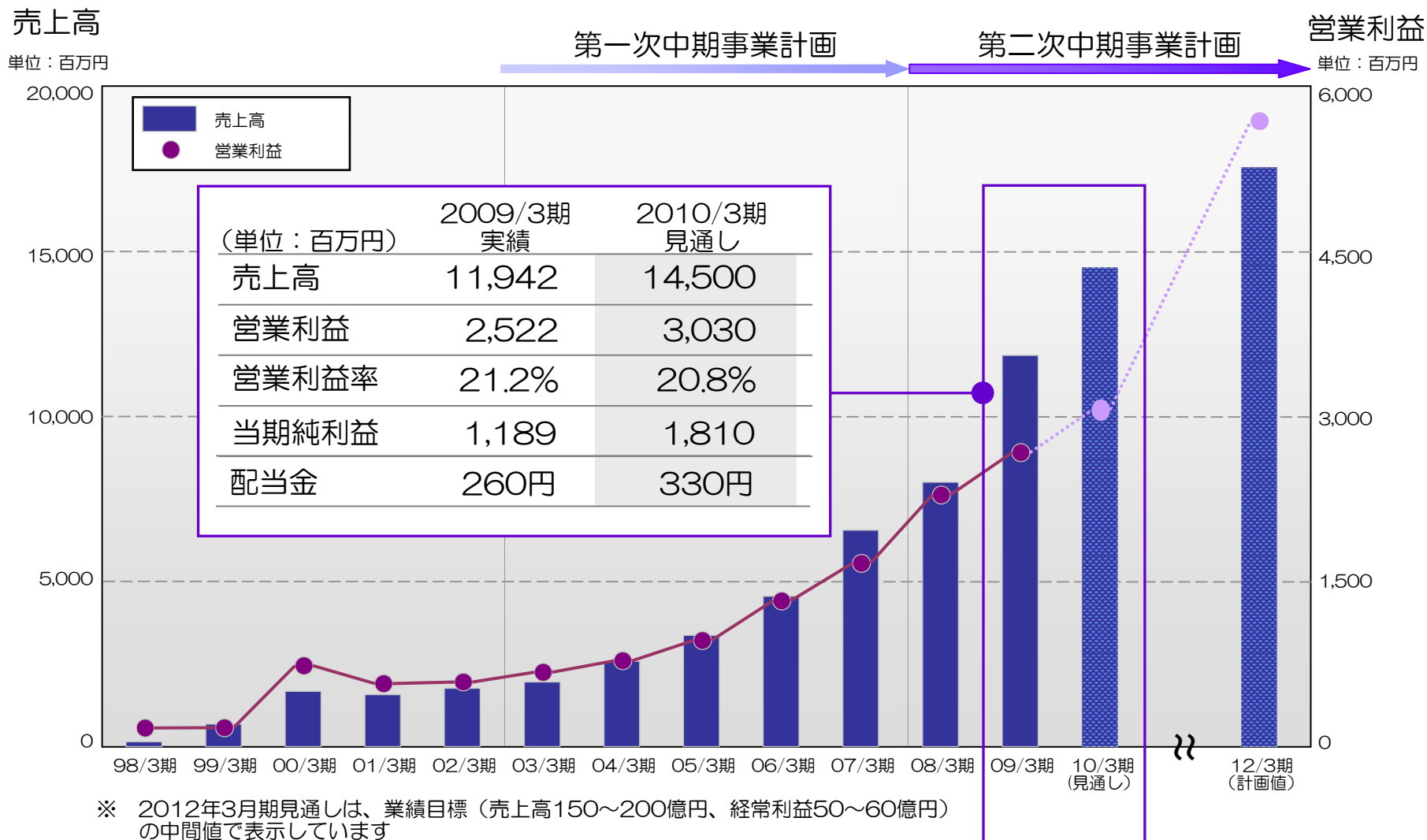
※計画値は、2006年11月に策定した第二次中期事業計画の計画値です。

※2010年3月期、2012年3月期のグラフはすべて中間値で表示しています。

※2010年3月期、2009年3月期の売上高・営業利益の計画値は、上限値を目標、下限値を株主の皆様に対する公約・責務（コミットメント）としています。

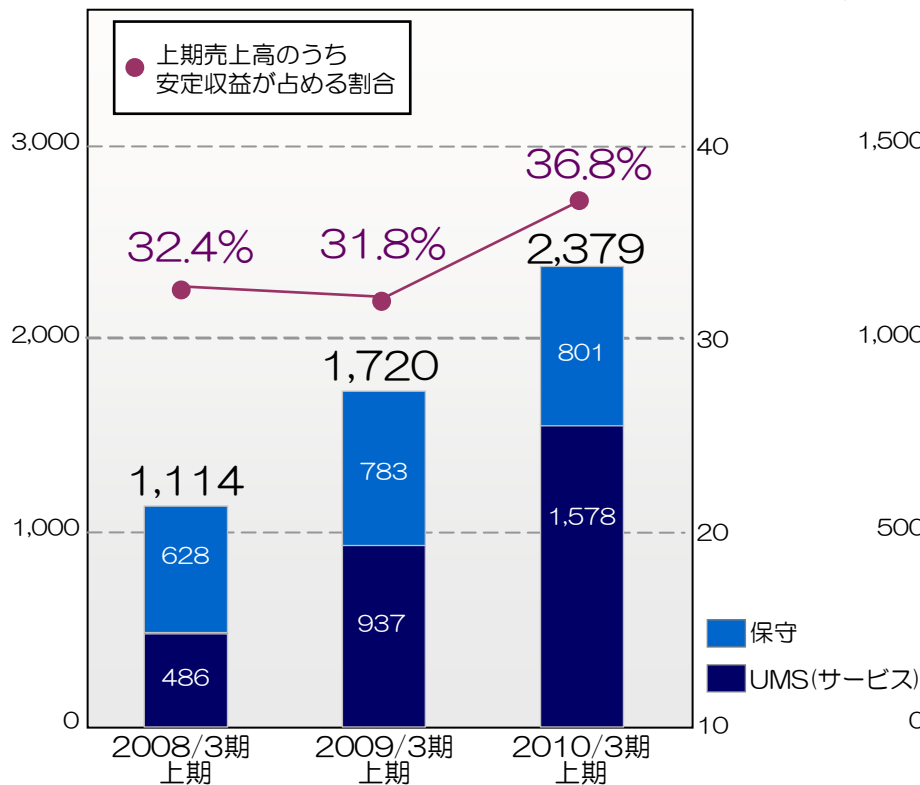
參考資料

創業時からの売上高・営業利益の推移

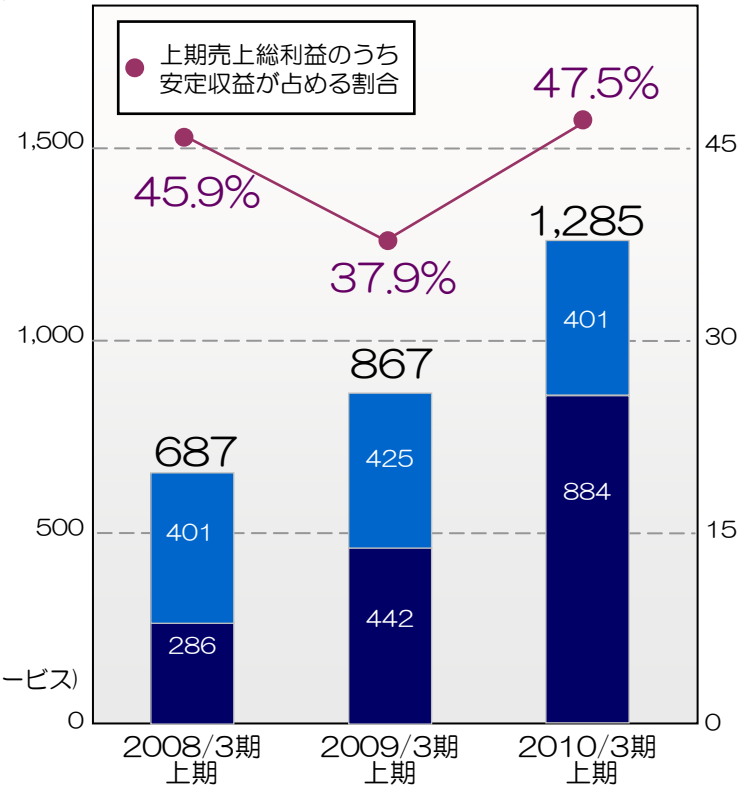


安定収益<保守+UMS（サービス）>の推移

安定収益 売上高の推移 単位：百万円 単位：%



安定収益 売上総利益の推移 単位：百万円 単位：%



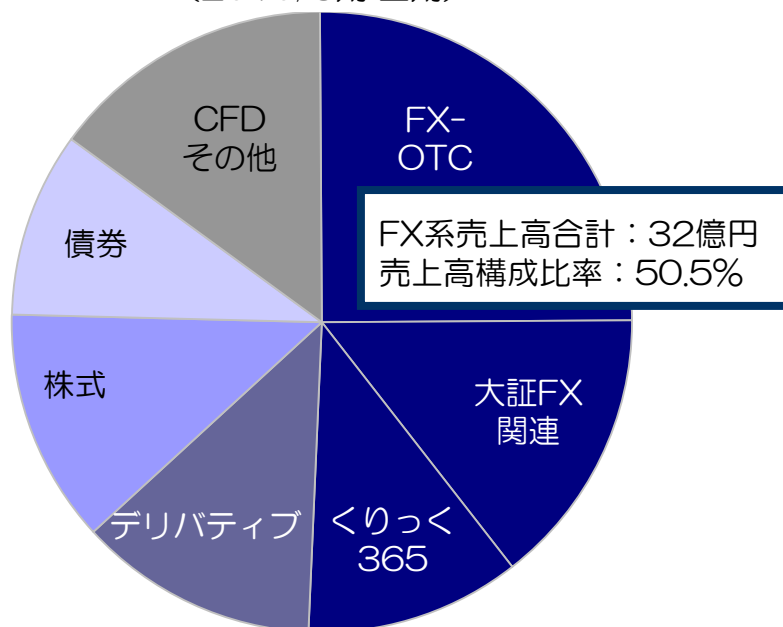
安定収益が売上高の約3割、売上総利益の約4割に拡大

UMS（サービス）が順調に伸びる一方、保守が伸び悩む

※安定収益とは、保守とUMS（サービス）を合計した「ストック型ビジネス」の売上高/利益を指します。

2010年3月期上期 ソリューション別売上高構成比

ソリューション別
売上高構成比率
(2010/3期 上期)



		売上高	構成比
FX	OTC	1,618百万円	25.1%
	大証FX	924百万円	14.3%
	くりっく365	711百万円	11.0%
デリバティブ		857百万円	13.2%
株式		827百万円	12.8%
債券		632百万円	9.8%
CFD/その他		876百万円	13.5%
売上高合計		6,449百万円	100%

UMS事業 「SPRINT」 導入実績

■ 「SPRINT」とは；

多彩な注文機能と分析機能を搭載した個人投資家向けインターネット取引システム

パソコンや携帯電話を利用して、豊富な金融商品を簡単・すばやく取引できる投資環境を実現 2009年10月末現在

	対応商品						
	株式 (現物・信用)	先物・オプション	FX			債券	CFD
			OTC※1	くりっく365※2	大証FX※3		
 SPRINT Pro スプリント・プロ リッチクライアント PC版	オリックス証券 ジョインベスト証券 松井証券 先物系証券会社1社	オリックス証券 ジョインベスト証券 松井証券 先物系証券会社1社	ソニー銀行 マネーパートナーズ 三菱商事フューチャーズ	インヴァスト証券	インヴァスト証券 光世証券 コスモ証券 そしあす証券 ひまわり証券 豊証券 この他5社から内定	△	△
 SPRINT Mobile スプリント・モバイル リッチクライアント 携帯電話版※4	オリックス証券 ジョインベスト証券 松井証券 先物系証券会社1社	オリックス証券 松井証券 先物系証券会社1社	ジョインベスト証券 ソニー銀行 マネックスFX マネーパートナーズ 三菱商事フューチャーズ	豊商事	△	△	△
 SPRINT Basic スプリント・ベーシック ウェブブラウザ版	△	ジョインベスト証券	スター為替証券 ソニー銀行 三菱商事フューチャーズ 大手ネット專業証券1社 ネット專業証券2社	インヴァスト証券 スター為替証券 住信SBIネット銀行 豊商事 ユニマット証券	インヴァスト証券 光世証券 コスモ証券 そしあす証券 ひまわり証券 豊証券 この他5社から内定	オリックス証券	大和証券

※1 ウェブブラウザ専用のOTC対応版は、SI事業として大和証券、ひまわり証券、マネーパートナーズに納入しております。

△...今後対応予定の商品・チャネル

※2 ウェブブラウザ専用のくりっく365対応版は、SI事業としてコスモ証券に納入しております。

※3 大証FX対応版は、2009年7月21日よりサービスを開始しております。

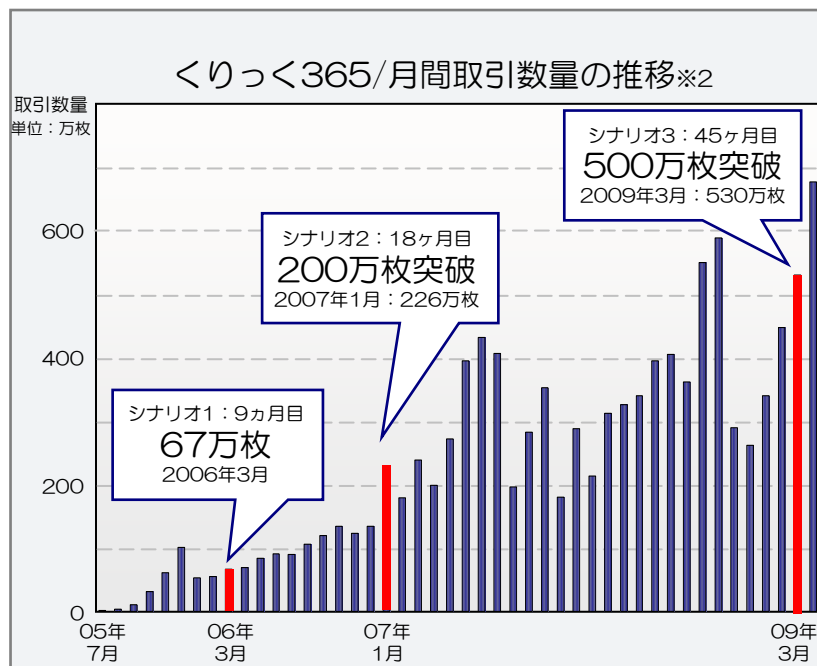
なお、マーケットメイカー向け取引ゲートウェイシステムをマネーパートナーズに提供しています。

※4 リッチクライアントとは、専用のソフトウェアをダウンロードすることで高い操作性・表現力・機能性を実現するアプリケーションの総称です。

2010年3月時点 大証FX関連サービス売上予測について

予測にあたっての前提

- 取引所向けサービス・FX事業者向けサービスの双方から売上を計上予定
- FX事業者向けサービスからの売上予想については、当社サービスを利用した取引が大証FX取引全体の65%を占めると仮定 ※1
- 売上計上の際、係数となる取引数量には取引所FX取引「くりっく365」の取引実績を参考に当社算出



2010年3月時点の大証FX関連売上予測シナリオ

■シナリオ1：67万枚	5,800万円 (年換算：6.9億円)
■シナリオ2：200万枚	8,500万円 (年換算：10.2億円)
■シナリオ3：500万枚	14,900万円 (年換算：17.8億円)

2010年3月時点の売上予想にはシナリオ1を採用
当初半年程度は取引量を保守的に見積る

※1 占有率は、2009年5月時点で当社がサービス提供を予定していた合計8社のFX事業者の事業規模から算出しています。

※2 東京金融取引所の「くりっく365 全通貨取引数量/建玉推移」<http://www.click365.jp/statistics/data/monthlyfx.xls>から当社が作成したものです。